

小論文前期

注意事項

- 解答用紙記入要領

受験番号				
MB	0	1	2	3
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				

フリガナ	ニッポン	ハナコ
氏名	日本 花子	

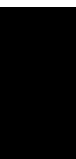
注意事項

- 黒鉛筆(BまたはHBに限る)を使用する
- マークは、はみ出さないように○の
- 所定の記入欄以外には何も記入しない

 ※ マークの塗り方が正しくない場合には、

良い例	悪い例

- ◇M1(632—1)



小論文(基礎学力試験)

解答上の注意

1. 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。

例えば、

4

と表示のある問題に対して、「①～⑨のうちから2つ選び、一緒にマークせよ。」の場合には、次の例に従う。

例：②と⑦と答えたい場合には

解答 番号	解 答 欄									
4	①	☒	③	④	⑤	⑥	☒	⑧	⑨	⑩

1

次の文章を読んで、下の問い(問1～6)に答えよ。

あのと、冬のアンドス山脈横断飛行中に君が消息を絶ってすでに50時間が経過していた。僕はパタゴニアの僻地^{へきち}から戻り、メンドサでパイロットのドレーに合流した。ドレーと僕はそれぞれ飛行機に乗ってあの山並みを5日間探索したが、何の手がかりも得られなかった。

(略)

こうしてついに7日目に入り、僕が搜索飛行の合間にメンドサのレストランで昼食をとっていると、一人の男がドアを開けて何か叫んだ。ほんの数語だった。

「ギョメ……生きている！」

(略)

その後、君は事件の顛末^{てんまつ}を話してくれた。

(略)

君は氷点下40度の寒気の中で足先と膝^{ひざ}と手から血を流しながら、標高4500メートルの山をよじ登り、垂直の絶壁に沿って進んでいた。徐々に血液と体力と理性を失いながら、それでも君は蟻^{あり}のような執拗^{しつよう}さで前進しつづけ、障害^{うかい}を迂回するために来た道を引き返し、転んではまた立ち上がった。坂道を上ればかならず奈落に突き当たったが、休息をとることは一度もなかった。いったん体を休めてしまえば、君が雪のベッドから起き上がることは二度となかっただろう。

実際、滑って転倒しても、そのまま石になってしまわないためには即座に立ち上がる必要があった。寒気が君を刻々と石に変えていた。転んだまま1分でも余計な休息をとれば、立ち上がるには死後硬直を起こしたような筋肉を無理やり動かさなければならなかった。

君は誘惑^{あらが}に抗った。「雪の中では」と君は僕に言った。「生存本能がすっかり消えてしまうんだ。2日、3日、4日と歩きつづけた者の望みは、ただ眠ることだけだ。僕もそうだった。だけど、僕は自分にこういきかせたんだ。妻は僕がまだ生きていると信じているかもしれない。そして、もしそう信じているなら、彼女は僕が歩きつづけていると信じているだろう。僚友たちは僕が歩きつづけていると信じている。皆、僕を信じてくれている。それでもし歩きつづけていなければ、僕はただの卑劣漢だ、とね」

君は歩きつづけた。毎日、ポケットナイフの先端で靴に入れた切れ込みを少しずつ広げながら。凍傷を起こしてふくれ上がった足をどうにか靴に収めるには、そうするよりほかになかったのだ。

君はこんな奇妙な告白をしてくれた。

「分かるかい？　すでに2日目からしてそうだったんだが、僕が一番苦労したこと、それは
A ことだったんだ。とにかく、あまりにも苦しかったし、あまりにも絶望的な状況だったから、勇気を出して歩きつづけるには、今の状況を忘れる必要があったんだ。だが、不幸なことに、脳みそが言うことをきかないんだよ。頭の中がタービンみたいに回転しつづけるんだ。もっとも、頭の中を駆け巡る映像は指定することができたがね。昔の映画か本を脳に投げ与えてやるんだ。すると、その映画なり本なりの内容が頭の中をものすごいスピードで流れていく。もちろん、最後にはまた現実に戻される。それは避けがたい。だが、そうなったら、また別の思い出を脳に投げ与えてやればいいんだ……」

それでも一度、足を滑らせ、雪の中で腹這いになったとき、君は立ち上がることを諦めた。突然、すべての情熱を失ったボクサーは、レフェリーの秒読みの声がよそよそしい世界の中に響きわたるのを遠くに聞きながら、最後のテンカウントが告げられるのを待つ。君もそうだった。

「できる限りのことはした。希望はまったくない。とすれば、これ以上苦しみつづけることに何の意味があるだろう？」目を閉じさえすれば、すぐにでもこの世界に平和をもたらすことができるはずだった。この世界から、岩と氷と雪を消し去ってしまえるはずだった。事実、奇跡を起こしてくれるはずの目蓋を軽く閉じてみると、それだけでもうパンチを喰らうことも、転倒することもなくなった。ずたずたになった筋肉の痛みも、焼けつくような寒さも消滅した。牛のようにとぼとぼと歩きつづける身には荷車よりも重たく感じられる生命という名の重荷も消えていた。このとき、周囲の冷気は毒と化していた。君はすでにその毒を口にしていた。モルヒネのもたらすような幸福感が君を満たしていった。君の生命は心臓のあたりに退避していた。何か甘美でかけがえのないものが君の中心にうずくまっていた。一方、それまで獣のように苦痛にのたうちまわっていた肉体は、もう大理石のように何にも反応しなくなっていた。その肉体を、君の意識は徐々に見放していった。まず見放されたのは、君の中心から離れた箇所だった。

君は良心の呵責も感じなくなっていた。

もう君に僕らの呼び声が届いていなかった。というよりむしろ、君にとって、僕らの呼び声は夢の一部にすぎなくなっていた。君はその呼び声に、嬉しそうに夢の中で歩きまわることでもって答えた。大腿でゆうゆうと闊歩する君の前に、平原の美しい景色が開けていった。ギョメ、君は何とやすやすとこの優しさに満ちた世界の中に潜りこんだことだろう。君はこのとき、生還の喜びを独り占めし、僕たちとその喜びを分かち合うのをやめることに決めたのだ。

B は君の心の奥底からやってきた。夢うつつの君の心に、突然、一つの小さな事実がくっきりと浮かび上がったのだ。「妻のことを考えたんだ。僕は保険に入っているから、妻に金で苦労はさせないはずだった。だけど、保険ってというのは……」

行方不明の場合、死が法的に認定されるのは4年後になる——この事実が君の頭の中で眩しい光を放ち、他のいっさいを消し去った。このとき、君は険しい雪の斜面でうつぶせに倒れていた。夏になれば、君の遺体は泥にまみれながら斜面を転がり落ち、アンデス山脈にごまんとあるクレバスのどれかに呑み込まれることになる。それは君にも分かっていた。と同時に、今、50メートル先に岩が突き出していることも君には分かっていた。「僕は考えた。もしここで立ち

上がれば、岩まで辿りつけるかもしれない。そこで体を岩にしっかり固定させれば、夏には発見してもらえらるだろうってね」

ひとたび立ちあがると、君は2晩と3日歩きつづけた。

(略)

「救いをもたらしてくれるのは、一步踏み出すことだ。一步、また一步。同じ一步を繰り返して……」

「誓ってもいい、僕がしたことは他のどんな動物にも真似できない」僕が知っている言葉の中で最も気高いこの言葉、人間の居場所を定め、人間を顕彰し、自然界の真のヒエラルキーを再建するこの言葉が、僕の記憶に甦った。君はようやく眠りに就き、眠りの中で君の意識は消滅した。だが、君が目を覚ませば、傷つき、焼け焦げ、皺だらけになった肉体の中にまた意識が芽生え、肉体を支配するはずだった。そうなったら、肉体はもはや有用な道具にすぎない。召使いにすぎない。とはいえ、道具には道具なりの矜持があって、ギヨメ、君はその矜持を表現してやる術も心得ていた。

(略)

僕が徹夜で看病したメンドサの部屋で、君はようやく喘ぎながら眠りに落ちた。僕は胸の内でこう呟いた。「もし誰かがギヨメに向かってその勇気を讃えたら、ギヨメはきっと肩をすくめるだろう。だが、それで今度は彼の謙虚さを称賛するとしたら、それも彼を分かっている証拠だ。彼はそんなありふれた美德を超えたところにいる。勇気を褒められて肩をすくめるのは、彼がよくものを知っているからだ。実際、彼はよく承知しているのだ、人はひとたび事件に巻き込まれてしまえば、もう事件を怖れはしないものだ、と。人を怖れさせるのは正体の分からないものだけだ。事件に直面した者にとって、その事件はもう正体不明の何かではない。とりわけ、はじめに、冷静に事態を見つめることのできる者にとっては。皆がギヨメの勇気と呼んでいるもの、それは何よりもまず、彼のひたむきさに由来するものだ」

だが、彼の真価はそこにはない。彼が本当にすごいのは、自分には責任があると感じるところだ。自分自身に対して、郵便物に対して、希望を持ちつづける僚友たちに対して責任があると感じるところだ。彼は僚友たちの喜びと悲しみを一身に背負っている。もし人々のあいだで何か新しいことが行われようとしているなら、当然、自分もそれに参加して責任を負わなければならない。そう彼は考える。彼は職務の範囲内で、多少とも人類全体の運命に責任を負っているのだ。

この世には、広大な地平に緑を生い茂らせることを己の使命とするスケールの大きな人がいる。ギヨメもその一人だ。人間であるということ、それはとりもなおさず責任を持つということだ。自分のせいではないと思っていた貧困を前に赤面すること、僚友が勝ち取った栄冠を誇りに思うこと、自分に見合った石を積むことで世界の建設に貢献していると感じることだ。

世間はそんな人物をとかく闘牛士やギャンブラーと同一視し、彼らが死の危険をものとしな
いのを褒めそやす。だが、僕に言わせれば、死を軽視するなんて笑止千万だ。実際、死を軽視す
るなどということは——それが責任上やむを得ない場合はともかく、そうでない限り——若さの
欠乏ないし過剰の証^{あか}しでしかない。僕は若くして自殺した男を一人知っている。

(略)

このみじめな最期を前にして、僕は本当の人間の死を思い出していた。以前、僕にこう語った
一人の庭師の死だ。「お分かりいただけるでしょうが……昔は、ときどき土を掘り返すのが辛く
思えたものです。リウマチ^(出題者注)で足が引きつりましてね。奴隷の身の上^{のろ}を呪ったものです。で
すが、今では、いつまでも土を掘り返していたいんですよ。鍬^{くわ}を振るうってことが、とてもすて
きなことに思えるんです。鍬を振ると、とてつもなく自由になれますからね。それに、
誰が私の代わりにこの樹を刈りそろえてくれます？」彼にはまだこれから耕さなければならない
荒地が残されていた。耕さなければならない惑星が残されていた。彼はすべての土地と愛情で
結ばれていた。この大地のすべての木々と愛情で結ばれていた。彼こそ心の広い、物惜しみをし
ない、本当の意味での領主だった。世界の建設に参加しなければならないと考え、そのために死
と闘っていたとき、彼はギョメ同様、C 人間だった。

(サン=テグジュペリ (著)、渋谷豊 (翻訳)『人間の大地』(光文社古典新訳文庫 2015 年)より一部改変)
Terre Des Hommes by Antoine de Saint-Exupéry. Reproduced with permission of Foundation Antoine de Saint-Exupéry. # 1

(出題者注) リウマチ：免疫の異常により関節，骨，筋肉のこわばり，腫^はれ，痛みなどの症状を
呈する病気

問 1 下線部ア「誘惑」の内容として、適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから 2 つ選び、一
緒にマークせよ。1

- ① 生きること
- ② 死ぬこと
- ③ 眠ること
- ④ 休息すること
- ⑤ 泣くこと

問 2 空欄 A に当てはまる最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから 1 つ選べ。

2

- ① 眠ることができない
- ② 歩き続けるのを止められない
- ③ 希望を持ってない
- ④ 休息できない
- ⑤ 考えるのを止められない

問 3 下線部イ「何か甘美でかけがえのないもの」として、適切でないものはどれか。次の①～⑤のうちから2つ選び、一緒にマークせよ。 3

- ① 優しさに満ちた平和な世界
- ② 生還の喜びへの希望
- ③ 家族や友人との再会
- ④ 休息できることの安堵^{あんど}
- ⑤ 痛みからの解放

問 4 空欄Bに当てはまる最も適切な語句はどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。
4

- ① 憎悪の念
- ② 自責の念
- ③ 後悔
- ④ 恐怖感
- ⑤ 戦闘心

問 5 下線部ウ「僕が知っている言葉の中で最も気高い」と考える理由として、適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから2つ選び、一緒にマークせよ。 5

- ① 人間の責任感を表しているから
- ② 人間の知性を表しているから
- ③ 人間と動物の違いを表しているから
- ④ 死の危険をものとしめない意志を表しているから
- ⑤ 人間の本質を表しているから

問 6 空欄Cに当てはまる最も適切な語句はどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。
6

- ① 本当の
- ② 気高い
- ③ 勇気ある
- ④ 謙虚な
- ⑤ 自由な

2

次の文章を読んで、下の問い(問1～6)に答えよ。

そもそも技術予測というのは、本来、2種類のちがった予測を組合わせてはじめて可能になる。第1は「技術実現予測」とでもいうべきもので、現在の技術水準からみて、将来どの程度の範囲の技術が実現しうるかを予測する作業である。第2は「技術普及予測」とでもいうべきもので、どんな技術に対して社会の側のニーズが出てくるかを予測する作業である。ふつう技術予測というと第1の実現予測だけが念頭におかれている。だが、実際には、実現可能な技術が全て実用化されるわけではない。実現可能な技術のなかで社会的なニーズをえたものだけが、現実「新技術」として社会に受け入れられていく。だから、技術予測には技術普及予測が不可欠である。

(略)

問題はこの技術普及予測の中身である。技術普及予測というのは、社会のニーズについての予測である。つまり、この予測の本当の対象は技術ではなく、社会なのだ。例えば、「この技術がこの程度安価になればこの程度普及する」というごく単純な普及予測でさえ、「人々の欲望の形態や購買行動が A 」＝「それらをささえる社会のしくみが変わらない」という社会予測をふくんでいる。一言でいえば、技術普及予測というのは、技術の予測というより、技術に関する社会予測なのである。

社会予測の密輸入

情報技術と社会のしくみとのかかわりを本気で考えるとすれば、本来、こういう順番で考えていかなければならないはずである。その意味で、あの科学技術庁の技術予測ははずれるべくしてはずれたとっていい。技術予測は社会予測を前提とし、社会予測には技術以外のさまざまな要因を考慮する必要がある。それが全く視野の外に置かれているのだから、あたる方がおかしい。もしあたったとしても、それは単なる偶然にすぎない。

「数十年前の技術予測の話だ」と思うかもしれないが、技術の進展から未来の社会を予測しようという情報化社会論もこれと全く同じことをやっている。ニーズとその背後にある社会のしくみという要因を無視し、すべてを技術の内在的な進歩の必然的な結果として語っている。「情報技術が社会を変える」という、単純な技術決定論におちいっているのである。

このやり方が論理的にまちがっているのは、これまでの技術予測の分析からおわかりだろう。
ア 技術予測は社会予測を前提にしている。したがって、技術予測だけを先行させれば、必ず論点先取や前提の密輸入を犯してしまう。にもかかわらずなぜ情報化社会論は技術決定論をとりつづけるのか——まさにそれがこの本のテーマなのだが、ここではまずその結果の方に注目しておく。

技術決定論をとったところで、技術予測が社会予測なしではできない以上、どこからか社会予測を密輸入してこなければならない。つまり、表向きは技術決定論をとりつつ、意識的にか無意識的にか、裏で「社会がこうなるはずだ」という社会予測をたてて、それにもとづいて技術の動向

を予測するわけだ。そうなった場合、その社会予測が妥当かどうかを検討することはできなくなる。そこで社会予測をやっていることを認めれば、B からだ。したがって、どこからか出来あいの未来社会イメージを借りてきて、それを頭から真理として信じ込むしかない。

情報化社会論がやってきたのは結局そういうことなのである。

(略)

コンピュータの誘惑

このように、テクノロジーと社会の同形性というのは、きちんと考えていけば、かなりいい加減なアナロジー(出題者注1)にすぎない。けれども、このアナロジーは今でも根強い人気を保ちつづけている。これにはやはり人々の心をくすぐる魅力があるからだ。

「メモリ」や「プログラム」といった用語が示すように、もともとコンピュータは人間をモデルにしてつくられてきた。現在のコンピュータの^{アーキテクチャ}基本構造を考案したのはジョン・フォン・ノイマンだが、彼は意図的に人間をアナロジーしてそのアイディアを提示した。その開発思想は今も生きつづけている。コンピュータシステムはどこかつねにAI(人工知能)の夢をまとっているのである。

一方、社会のしくみの側もしばしば人間個体をモデルにして考えられてきた。社会科学でも長い間有機体のアナロジーが使われてきたし、社会科学の専門家でない人たちは、今も社会の「頭脳」「神経」「手足」といったアナロジーで社会のしくみをとらえることが多い。彼らにとっては、それがやはり自然でわかりやすい考え方なのである。

そのため、コンピュータ系の情報技術の場合、テクノロジーのモデルと社会のしくみがどうしても同形になりやすい。これは他の技術にはない、情報技術ならではの効果である。とりわけ、「判断する計算機」とか、「超並列コンピュータ」の自律分散システムといった、「未来テクノロジー」がもちだされた場合には、それが著しい。こうした場合、当の「未来テクノロジー」の方が未来社会イメージを模倣していることが多いからである。そうすると、「未来テクノロジー」と「未来社会」は論理的にも区別できなくなる。もともと同じものなのだから。

AI 的アナロジーの罠^{わな}

情報技術を取りあげた場合には、十分に注意しておかないと、こうした形でテクノロジーと社会のしくみが二重写しになる。だから、あたかもテクノロジーが高度化すれば社会のしくみも進化するように見えてしまう。このAI 的アナロジーの罠^{わな}こそが、「情報技術が社会のしくみを変える」ように見せるからくりの正体だ。

社会のしくみ自体はつねに目に見えない。「社会」というものがぶかぶか浮いているわけではないからだ。それに対して、情報技術の方は、電子回路とかプログラムとかネットワークポロジ^(出題者注2)といった形で、それなりに可視的なモノとして存在している。不可視の対象を可視的なモノでモデル化していると、いつのまにかモノの方が一人歩きする。これは社会科学の専門家でさえ、しばしばおちいる錯誤である。

とりわけ情報化社会論の場合、リアルさを売りものにしてきた。未来社会を目に見える形で提示するというのがその魅力であり、読者の方もそれを期待している。それだけに、可視的なモノにいつそうひきずられやすい。極端に言えば、あたかもテクノロジーだけが実在しており、社会の方が仮象^(出題者注3)であるかのように思えてくるのだ。

その結果、情報技術の形態が変われば、それをそっくり写す形で社会のしくみも変わるように見えてしまう。社会のしくみを同形のテクノロジーで置換えているので、テクノロジーの方を高度化すれば、そっくりそのまま社会のしくみも進化するように見えるわけだ。情報化社会論の主流を占める電腦社会論とメディア社会論というのは、一言でいえば、そういう話なのである。

別の言い方をすれば、それは目に見えることの畏、リアルさを追い求めることの畏ともいえる。
ウ

(『社会は情報化の夢を見る——〔新世紀版〕ノイマンの夢・近代の欲望』佐藤俊樹著、河出書房新社より一部改変) #2

(出題者注1) アナロジー：類推，類比。

(出題者注2) ネットワークトポロジー：コンピュータとネットワークの接続形態を表す言葉。

(出題者注3) 仮象：実際に存在するように感覚に現れながらも、それ自身客観的な実在性をもたない形象。

問1 空欄Aに当てはまる最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

7

- ① 一定のところで沈静化する
- ② 基本的には変化しない
- ③ 技術によって変化する
- ④ 適度に刺激される
- ⑤ 正確に予測できる

問2 下線部ア「このやり方が論理的にまちがっている」の意味として最も適切なものはどれか。

次の①～⑤のうちから1つ選べ。

8

- ① 技術実現予測からは社会予測をすることができないということ
- ② 技術普及予測を先行させて、技術実現予測の論点を先取りしているということ
- ③ 実現可能な技術が全て実用化されるわけではないのに、技術決定論をとっていること
- ④ 技術予測は社会予測を前提としているのに、技術から社会を予測しようとしているということ
- ⑤ 技術予測の分析を行ってはじめて、技術予測が社会予測を前提としていることがわかるということ

問 3 空欄Bに当てはまる最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

9

- ① 技術決定論に頼らざるをえない
- ② 社会予測を変更せざるをえない
- ③ 技術決定論を放棄せざるをえない
- ④ 技術実現予測を修正せざるをえない
- ⑤ 技術普及予測を撤回せざるをえない

問 4 下線部イ「AI 的アナロジーの罟」の説明として最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

10

- ① ノイマンの開発思想が今も生きつづけているために、社会科学の専門家が錯誤におちいるということ
- ② 情報技術ならではの効果があるために、コンピュータシステムはつねにAIの夢をまとっているということ
- ③ 情報技術が可視的なモノとして存在しているために、社会のしくみが目に見えなくなってしまうということ
- ④ コンピュータは人間をモデルにつくられたために、テクノロジーが高度化すれば社会も進化するように見えるということ
- ⑤ 「判断する計算機」という「未来テクノロジー」がもちだされたために、テクノロジーと社会のしくみが二重写しになるということ

問 5 下線部ウ「リアルさを追い求めることの罟」の説明として最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

11

- ① リアルさを売りものにすることで、かえって社会のしくみを見失ってしまうこと
- ② リアルさを無視しているからこそ、社会のしくみが進化しているように見えるということ
- ③ リアルさが一人歩きをする結果、社会が可視的なモノとして存在しているように思えてくるということ
- ④ リアルさにこだわっているにもかかわらず、社会が実体のない仮の姿であるかのように見えてくるということ
- ⑤ リアルさを読者が期待しているだけに、未来社会を目に見えるものとして提示せざるをえなくなるということ

問 6 情報化社会論がリアルに見える理由について、著者の主張として最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

12

- ① 社会のニーズ予測を行っているから
- ② 技術の内在的な進歩から導かれるから
- ③ 技術というリアルなモノにもとづいているから
- ④ 未来社会に対する願望を踏まえて技術予測を行っているから
- ⑤ 未来社会のイメージを技術予測という目に見える形で提示するから

3

次の文章を読んで、下の問い(問1～5)に答えよ。

5日に亡くなったアニメ監督の高畑勲さんの代表作「火垂るの墓」^{ほた}。戦争に翻弄^{ほんろう}され、悲しい最期を迎える兄妹を描いた作品だが、主人公の行動に対して「自己責任」論のような見方が生まれている。一方で、こうした批判を見越したかのような1988年公開当時の高畑監督のインタビューが「 A 」と注目を集める。

死去を受けて13日、日本テレビ系で急きょ「火垂るの墓」が放映された。ネット上には戦争のむごさを改めてかみしめる感想が並ぶ一方で、悲劇的な結末を招いたのは「 A 」という言葉も目立った。

主人公・清太と妹の節子は、父親の出征中に空襲に遭い、母親を亡くす。親戚のおばさん宅に身を寄せるが食事の内容に差をつけられたり、「疫病神」と嫌みを言われたりすることに耐えられず、横穴で2人きりの生活を始める。しかし、節子は栄養状態が悪化し、やせ衰えて死ぬ。

「 B しろ、現実を見ろ、といった冷淡な意見が多くて驚いた」と映画ライターの佐野亨さん(35歳)。戦争で理不尽な状況に追い込まれた、弱者であるはずの清太の問題点を強調する風潮が気になったという。

自己責任の賛否を巡るネット上の応酬の中で脚光を浴びたのが、公開時に「アニメージュ」誌(徳間書店)に掲載された高畑監督のインタビュー記事(1988年5月号)だ。

監督は「心情的に清太をわかりやすいのは時代の方が C したせい」と語る。清太の行動は D で、戦争時の E な集団主義の社会から「 F な行為」で自らを解き放とうとしたと、観客が共感できると考えていたとうかがえる。一方で、こう続ける。

「もし再び時代が C したとしたら、果して私たちは、いま清太に持てるような心情を保ち続けられるでしょうか。全体主義に押し流されないで済むのでしょうか。清太になるどころか、(親戚のおばさんである)未亡人以上に清太を指弾することにはならないでしょうか、ぼくはおそろしい気がします」

公開から30年、日本ではいたるところで自己責任論が起こり、時代を反映して映画の見られ方も変わってきた。佐野さんは「戦時下の混乱のなか、自分が清太だったらどんな判断ができるのか。そういう G の欠如が H へのバッシングにつながり、全体主義をよみがえらせかねない。高畑監督はそこまで予見していたのでしょう」と話す。

(『火垂るの墓』自己責任論、高畑勲監督は『予言』した?)(朝日新聞 2018年04月22日)より一部改変)

*朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。承諾番号:19-1737 #3

問 1 空欄Aに当てはまる最も適切な語句はどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

13

- ① 忘恩負義
- ② 本末転倒
- ③ 傍若無人
- ④ 自業自得
- ⑤ 四面楚歌_{しめんそか}

問 2 空欄Bに当てはまる最も適切な語句はどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

14

- ① 熟考
- ② 悔悟
- ③ 我慢
- ④ 達観
- ⑤ 挑戦

問 3 空欄Cに当てはまる最も適切な語句はどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

15

- ① 逆転
- ② 暗転
- ③ 好転
- ④ 退転
- ⑤ 変転

問 4 空欄D，空欄E，空欄Fそれぞれに当てはまる最も適切な語句はどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

16

- | 空欄D | 空欄E | 空欄F |
|--------|------|------|
| ① 刹那的 | 制限的 | 現代的 |
| ② 衝動的 | 無気力的 | 生産的 |
| ③ 現代的 | 抑圧的 | 反時代的 |
| ④ 普遍的 | 没個性的 | 合理的 |
| ⑤ 同時代的 | 前時代的 | 衝動的 |

問 5 空欄Gと空欄Hそれぞれに当てはまる最も適切な語句はどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

17

- | 空欄G | 空欄H |
|-------|--------|
| ① 忍耐力 | 貧者 |
| ② 想像力 | 弱者 |
| ③ 抑止力 | 読者 |
| ④ 共感力 | 全体主義者 |
| ⑤ 注意力 | 自己責任論者 |

4 次の文章を読んで、下の問い(問1～5)に答えよ。

私は教師として、読んだことのない本について大勢の人の前でコメントしなければならないという状況に何度も身をおいたことがある。

(略)

時が経つにつれて分かってきたことは、学生たちはこうした状況を微塵^{みじん}も苦にしていないということだった。じっさい彼らはよく、読んだことのない本について、私が期せずして与えるいくつかのヒントを手がかりに、当を得た、ときには正確ですらある発言をするのである。以下では、私が教えているしかじかの学生を例にとるわけにもいかないのに、地理的には遠いが、内容的には近いと思われるティヴ族の例を取り上げたい。

ティヴ族はアフリカ西海岸に住む一部族である。人類学者ローラ・ボハナンが語るティヴ族の一行は、厳密な意味で学生であるわけではないが、学生と同じ状況に身をおいている。ボハナンは、彼らが聞いたこともないイギリスの戯曲作品の内容を彼らに説明しようとするのである。その作品とは『ハムレット』にほかならない。

シェイクスピアの戯曲を紹介するというこの行為には理由がないわけではない。ローラ・ボハナンはアメリカ人だが、彼女にはイギリス人の同僚(男性)がいて、彼はアメリカ人にはシェイクスピアなど理解できないのではないかとと思っている。そして彼女が人間の本性はどこでも同じだろうと反論すると、彼はそんなこと証明できるものならしてみせてほしいと言う。こうしてボハナンは、アフリカに出発するにあたり、人間は文化の違いにかかわらずどこでも同じだということを証明したいという思いから、『ハムレット』を荷物に入れて持っていくのである。

(略)

一方、ティヴ族の人々は、ローラ・ボハナンが何時間も同じ本を読んでいるのに気づき、興味を引かれて、その面白そうな話を自分たちにも聞かせてくれないかと頼む。ただ分からないところがあればそのつど説明してほしい、言葉の間違いは大目に見るからとも言いつける。こうして彼女にとっては、自分の仮説を検証し、シェイクスピア劇は万人に理解可能だということを証明する願ってもない機会が訪れる。

(略)

ローラ・ボハナンの話は次にハムレットの母ガートルードに及ぶが、ここでも事はうまく運ば

ない。西洋人がこの戯曲を読む場合、ガートルードが夫の死後、しかるべき期間を経ないですぐに再婚したことに憤慨するのがふつうだが、ティヴ族の人々は、反対に、よくこれだけ長いあいだ待てたものだときどき驚くのである。

「息子のハムレットは母親がこんなに早く再婚したことをとても悲しかったです。母親がそうしなければならない理由はまったくなかったし、私たちの国では、寡婦は2年間は喪に服して、そのあいだは別の男とは結婚しないのが慣わしなんです」

「2年は長すぎます」と夫の使い古した山羊皮の袋を持って現われた長老の妻が言った。「夫がいないあいだ誰が畑の草取りをするんです？」

「ハムレットです」と私はよく考えもしないまま言い返した。「彼は母親の畑の草取りができないほど子供ではありませんでした。母親が再婚する必要などなかったんです」しかし誰も納得したようには見えなかった。私もそれ以上は言わなかった。

ローラ・ボハナンは、このように、ハムレットの家族状況をティヴ族にうまく説明できない。しかし亡霊の話はもっと厄介である。『ハムレット』および西洋社会において亡霊というものが占める重要な位置を彼らに理解してもらうのはさらにむずかしいのだ。

(略)

驚くことに、ティヴ族は亡霊の存在を信じていない。亡霊はわれわれには馴染みぶかい存在だが、彼らの文化のなかにはそれに当たるものはないのである。

私は英語の「亡霊^{ゴースト}」という言葉を使わざるをえなかった。この人たちは、近隣の多くの部族とはちがって、死後の生というものをまったく信じていなかったからだ。

「亡霊」というのはなんだ？ まぼろしのことか？」

「いいえ、「亡霊」というのは、死んではいるけれども、歩き回ったり、話したりできる人間のことです。「亡霊」の声を聞くことも、姿を見ることもできます。でも触ることはできません」

彼らは反論した。「ゾンビなら触ることはできる」

「いや、「亡霊」というのは、魔術師が生き返らせていけにえにして食べる死体のようなものじゃありません。ハムレットの父親は誰かに歩かされているんじゃないんです。自分で歩いているんです」

そう言ったところで無駄だった。というのも、不思議なことに、ティヴ族はアングロ＝サクソンより合理的な考えかたをしていて、彼らには死者が歩くなどという考えは受け容れられないこ

とだったからである。

「死人が歩けるわけないだろう」と聴衆は声をそろえて異論を唱えた。

私は少しは妥協してもよいと思った。「亡霊」というのは死人の影なんです」

しかしこれにも彼らは反論した。「死人に影などない」

「でも私の国ではあるんです」と私はぴしゃりと言った。

(略)

かくして、ローラ・ボハナンは『ハムレット』を最後まで語って聞かせるのだが、彼女にどれほど譲歩する用意があるかと、シェイクスピア劇を介してティヴ族の人々と言説対象を共有し、彼らとのあいだの文化的な溝を埋めることはできないのである。

以上に見たように、ティヴ族の人々は『ハムレット』を一行も読んだことはないが、それでもこの戯曲についていくつかの明確な考えをいざうることができる。そして、私が講義で言及する本を読んだことがない私の学生と同様、この戯曲について議論することも、自分の意見を述べることも難なくできるのである。いや、できるだけでなく、進んでそうしようとするのだ。

ただ、彼らはたしかにこの戯曲の内容に関して自分たちの考えを表明するが、かといってその考えは、戯曲を知ると同時にできあがったものでも、それよりあとに生まれたものでもない。それは極端に言えば戯曲を必要とすらしていない。彼らの考えはむしろ戯曲を知る前からでき上がっていたのである。つまりそれは、ひとつの体系として組織された、ある世界観の総体を形づくっているのであって、そのなかにシェイクスピアの作品は迎え入れられ、場を得たのである。

いや、作品というより、ありとあらゆる会話や文章のなかを循環し、作品が不在のときにそれにとって代わる多数の情報の断片というべきだろう。ティヴ族の人々は想像上の『ハムレット』について語っているのだ。ではローラ・ボハナンの語る『ハムレット』はそれより現実的だろうか。彼女がこの戯曲を彼らよりよく知っていることはたしかだが、彼女の『ハムレット』の方がより現実的だとはいえない。これもまた、系統だった、さまざまな表象の総体として捉えられているからである。

私はこの神話的、集団的、ないし個人的な表象の総体を〈内なる書物〉と呼びたい。これは、われわれが新たに本に出会うたびに、われわれとその本のあいだを仲介し、われわれの知らないうちに読解のしかたを方向づけるものである。ほとんど無意識の領野に属するこの想像上の書物は、新しいテキストの受容にさいしてフィルターの役割を果たし、テキストのどの要素を取り上げ、それをどのように解釈するかを決定する。

この〈内なる書物〉は、内在的かつ理念的で、ティヴ族の例から分かるように、ひとつないし複数の伝説的物語を内に含んでいる。そしてこれらの物語は〈内なる書物〉の所有者にとってきわ

めて重要である。なぜなら、そこで語られているのは人間の誕生や終末の物語であるからだ。ティヴ族の人々の〈内なる書物〉の場合、そこに含まれ、彼らの結束の基盤となっている、血統や死後の生に関する理論に、ローラ・ボハナンのシェイクスピア読解が抵触するのである。

つまり、彼らが耳にしているのは、『ハムレット』の物語ではなく、その物語のなかで、家族や死者のありかたについての彼らの表象に適合し、その正当性を確認させてくれる部分なのである。一方、適合する部分がない場合、物語のなかの不穏当な箇所は、考慮されないか、変更される。すなわち、『ハムレット』——というより、ボハナンの視点で語られた『ハムレット』が彼らに与えるイメージ——が〈内なる書物〉とできるだけ合致するよう変更される。

ティヴ族の人々は、ローラ・ボハナンが語ろうとしている作品について議論しているわけではないのだから、作品を直接知る必要はない。議論に参加するには、ボハナンが少しずつ伝えてくれるいくつかの情報だけで十分なのである。この議論は2つの〈内なる書物〉のあいだの議論である。そこではシェイクスピアの戯曲は、議論するどちらの側にとっても、口実にすぎない。

もっと言うと、彼らが意見を表明しているのは主として自分たちの〈内なる書物〉についてなのだから、彼らは、似たような状況に置かれた私の学生たちと同様、シェイクスピアの作品を知る前にそれについて発言することもできたはずである。作品そのものは、いずれにしても、〈内なる書物〉がもたらす考察の枠のなかで溶解し、消えてゆく運命にあるのだ。

(略)

ティヴ族の人々が自分たちの読んでいない本についてどうみても偏った意見を述べるからといって、彼らの読みかたが戯画的であるとか、見るべき点がないなどと考えるはならない。それどころか、彼らはシェイクスピアの戯曲にたいして二重の意味で外側にいる—— A —— おかげで、それについてコメントする^{かつこう}恰好の立場にあるのである。

亡霊の話を信じないティヴ族の人々は、まさにそのことで、シェイクスピア批評の少数派だが活発な潮流に近い立場に身をおいている。この潮流に属する批評家たちは、ハムレットの父親の再出現に疑問を呈し、主人公ハムレットは幻覚に^{とら}われていたのではないかと示唆しているのである。異説ではあるが、少なくとも検討に値する仮説である。これをシェイクスピア劇とは無縁のティヴ族の人々が支持しているのだ。作品を知らないことは、逆説的にも、彼らにより直接的な接近を可能にする。しかもそれは、作品の隠された真実といったものへの接近ではなく、作品がもちうる無数の豊かさのひとつへの接近である。

(『読んでいない本について堂々と語る方法』ピエール・バイヤール著、大浦康介訳、ちくま学芸文庫より一部改変)

Pierre BAYARD: «COMMENT PARLER DES LIVRES QUE L'ON N'A PAS LUS?»

©2007 by Les Editions de Minuit 著作権代理：(株) フランス著作権事務所 #4

問 1 下線部ア「内容的には近い」と著者が述べているティヴ族と学生たちの共通点として最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。 18

- ① すべての本の中に自分たちの伝説的物語を探している。
- ② 自分で読んだことのない本の内容について議論している。
- ③ 自分達とまったく文化背景の異なる本を読み聞かせられている。
- ④ 母国語以外の言語で書かれた本の内容について教えをうけている。
- ⑤ その本をまだ読んではいないが、読んだかのようにふるまっている。

問 2 下線部イ「妥協してもよい」の意味として最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。 19

- ① 亡霊をティヴ族の考える呪術的な死者として説明してもよい。
- ② ティヴ族に死者の魂という概念を無理に押しつけなくてもよい。
- ③ 亡霊に該当するティヴ族の言葉を見つけられなくてもしかたない。
- ④ 厳密には意味がちがうが、ティヴ族が納得しそうな言葉を使ってもよい。
- ⑤ 物語的には重要性が低いので「亡霊という存在」として納得してもらおう。

問 3 『ハムレット』を一行も読んだことがないティヴ族が、下線部ウ「この戯曲について議論することも、自分の意見を述べることも難なくできる」理由として最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。 20

- ① 人間の誕生や終末の物語はすべての文化に共通したものだから
- ② ローラ・ボハナンが少しずつ伝えてくれるいくつかの情報だけで内容を理解できたから
- ③ 自分たちの血統や死後の生に関する理論に適合しない部分は無視してしまうから
- ④ ローラ・ボハナンがどのように説明しようと〈内なる書物〉のフィルターを通して『ハムレット』を理解するから
- ⑤ 『ハムレット』について知る以前からもっている彼らの物語について語っているから

問 4 下線部エ「この議論は2つの〈内なる書物〉のあいだの議論である」で著者が述べたいこととして最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。 21

- ① この議論では、ティヴ族とローラ・ボハナンは文化的な溝を埋めることはできない。
- ② この議論では、オリジナルの『ハムレット』に含まれる伝説的物語の本質を捉えることはできない。
- ③ この議論は作品をティヴ族とローラ・ボハナン、どちらの考察の枠組みで捉えていくかの戦いである。
- ④ この議論は『ハムレット』を口実に、自分たちの結束の基盤となる物語の正当性を確認しているにすぎない。
- ⑤ この議論では、ティヴ族の想像上の『ハムレット』よりローラ・ボハナンの『ハムレット』の方が現実的だとはいえない。

問 5 空欄Aに当てはまる最も適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから1つ選べ。

22

- ① 地理的に遠いだけでなく、社会的背景を異にしている
- ② 読んでいないだけでなく、文化を異にしている
- ③ 母語が異なるだけでなく、家族制度を異にしている
- ④ 他者の視点で語られただけでなく、社会規範を異にしている
- ⑤ 表象に適合しないだけでなく、理念を異にしている

◇出典許諾一覧

#1 (大問 1) p. 5

(サン＝テグジュペリ (著), 渋谷豊 (翻訳) 『人間の大地』 (光文社古典新訳文庫 2015 年) より 一部改変) Terre Des Hommes by Antoine de Saint-Exupéry. Reproduced with permission of Foundation Antoine de Saint-Exupéry.

#2 (大問 2) p. 9

(『社会は情報化の夢を見る―〔新世紀版〕ノイマンの夢・近代の欲望』佐藤俊樹著, 河出書房新社より一部改変)

#3 (大問 3) p. 12

(「『火垂るの墓』自己責任論, 高畑勲監督は『予言』した?」 (朝日新聞 2018 年 04 月 22 日) より一部改変)

* 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。承諾番号: 19-1737

#4 (大問 4) p. 17

(『読んでいない本について堂々と語る方法』ピエール・バイヤール著, 大浦康介訳, ちくま学芸文庫より一部改変)

Pierre BAYARD: 《COMMENT PARLER DES LIVRES QUE L'ON N'A PAS LUS?》

©2007 by Les Editions de Minuit 著作権代理: (株) フランス著作権事務所